

環境学習、エコツアーに!!

山から海まで水でつながる生態系を訪ねよう。

藤前干潟は、ラムサール条約に日本で12番目に登録された湿地です。森から川へ、川から干潟へ、干潟から海へと、水は流れています。森から水とともに流れてきた栄養分により、干潟の生態系は成り立っています。河口に位置する藤前干潟の自然環境を保全するためには、干潟に流れ込む川の上流の保全も大切なことであり、また、それは、干潟を通して水が流れ込む海の保全にもつながります。

ラムサール条約って何だろう？

ラムサール条約とは、1971年に、イランのラムサールで採択された、「国際的に重要な湿地」に関する条約です。条約にいう「湿地」は、干潟、藻場、珊瑚礁、マングローブ林、湿原、河川、水田、ダム、など山から海までの全ての水系と、最大干潮時から6mまでの浅海域が対象です。この「湿地」の生態系は、熱帯雨林と並ぶ高い生物生産力を持ち、農業や漁業の場としても重要な環境です。ラムサール条約は、多様な生物のつながりによるはたらかしの全体を保全することが大切との理解を広め、生態系を壊さず、その特質を活かしていること、国際的な「約束」です。また、生物の多様性を包括的に保全することを目的とした条約に、生物多様性条約があります。2010年10月には、生物多様性条約第10回締約国会議が名古屋市で開催されました。

ラムサール条約湿地に登録された場所

(2012年3月現在、37カ所)



土岐川、庄内川や新川、矢田川などから豊かな森のめぐみをもって、河口の藤前干潟も元気になるんだね。



シギ・チドリ類の東アジア・オーストラリアの渡りルート

渡り鳥は、夏季は繁殖のために餌の豊富な北へ渡り、冬季は餌を確保できる南の地域へ渡ります。その距離は1万キロを超える場合もあります。名古屋市は、渡りルート上にラムサール条約湿地を有するオーストラリア・ジロング市と湿地提携を結び、国境を越えて移動する渡り鳥の保全に共に取り組んでいます。

名古屋環境情報ネット (<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/>) では、双方の湿地ライブ映像を配信しています。



潮時をチェックしてお出かけください。

干潟は、いつでも出ているわけではありません。
 ●稲永公園側から見る場合…1m以下
 ●藤前側から見る場合…70cm以下
 であれば、干潟を見ることができます。
 潮位表で干潮時刻や潮位を確認し、お出かけください。
 干潮時刻の1時間前くらいから干潟が見やすくなります。
 潮位表は、新聞や名古屋港管理組合のHP等で確認できます。
 (<http://www.port-of-nagoya.jp/tidal/index.htm>)
 ケータイはこちら
 (<http://www.port-of-nagoya.jp/tidal/mov-tyouji.htm>)



野跡駅から約10分歩けば野鳥たちに出会えるよ。

ラムサール条約湿地 藤前干潟への誘い

藤前干潟のエコマップだよ。みんな来てね!!



なごやの港の鳥世界

ふじまえひがた

たくさん鳥がいるね。地球を旅する渡り鳥だね。

あおなみ線で藤前干潟へ行こう!!



ごみ埋め立てから守られた藤前干潟は、二百二十万都市のごみを四分の三に減らす画期的転換の契機となりました。名古屋市民に「やれば、できる」の自信を持たせ、環境問題にとりくむ人々を励まし、二十一世紀に生きる地球の生命に持続的な共存への希望を与えました。

おひさしぶりですが、お元気ですか？
 あなたはいつか、「大都市なごやの自然の宝」といわれる藤前干潟に関心はあ
 るが、行ったことはないと言われましたね。今日は、そんなあなたへのお誘いです。
 ラムサール条約湿地である藤前干潟には、四季折々に訪れる渡り鳥に出会い、
 それを支える干潟の生きものたちに触れあい、干潟の魅力を感じながら、生
 態系のはたらかしや暮らしのかかわりを知っていただける施設があります。ぜひ
 一度お出かけになって、地球を旅する渡り鳥たちの世界を訪ねてみませんか？
 あなたはきつと、厳しい環境の中で、自分の力で懸命に生きている生きもの
 たちに心をうたれ、食べる食べられるいのちのつながりの輪が、実は渡り鳥を
 支えるだけでなく、海の幸を育て、私たちの食べものになって暮らしを支えて
 くれることに気づかれるでしょう。

藤前干潟は、そんな生きものたちの豊かな個性とつながりを守る生物多様性条約の第10回締約国会議の名古屋市開催につながった場所なのです。

そんな場所で、あなたとも
 出会うことを楽しみに、私
 ちも出かけます。
 それではお会いするまで。

干潟はいのちのワンダーランド

渡り鳥の世界へ“はじめの一步”



藤前干潟をもっと知りたい。
ラムサール条約湿地藤前干潟 稲永ビジターセンター
 藤前干潟の景観を東側から見渡せるビジターセンターです。干潟の仕組みや渡り鳥の生態など、藤前干潟について学ぶことができます。

団体で利用される際は、事前にお申し込みください。

- 所在地 / 名古屋市港区野跡四丁目11-2 (稲永公園内)
- 入館料 / 無料 ●開館時間 / 9時~16時30分
- 休館日 / 毎週月曜日 (国民の祝日又は振替休日の場合はその翌日) 毎月第3水曜日 (祝日の場合は第4水曜日) 年末年始 (12月29日~1月3日)
- 連絡先 / 環境省 稲永ビジターセンター TEL052-389-5821 FAX052-389-5822
- ホームページ / <http://chubu.env.go.jp/wildlife/fujimae/index.html> (環境省中部地方環境事務所)

藤前干潟の鳥たち



ダイゼン 冬鳥、または旅鳥。夏になると腹部から顔まで黒くなる。

オオソリハシシギ 上にそった長くちばしが特徴。春と秋の渡り。

オナガガモ 冬の庄内川を代表するカモ。長い尾が特徴。数千羽の群れを作る。

スズガモ 大きな群れを作る。水中に潜って貝類などを食べる。

カワウ 少し沖で上手に潜って魚を捕る。堤防などで群れて休んでいる姿が見られる。羽を拡げて乾かしている姿もユーモラス。

アオサギ 堤防などでじっと魚をねらっている姿を見かける。全体に灰色がかって見える最大のサギ。

ハマシギ 千羽以上で群れをなして飛ぶ姿は干潟の風物詩となっている。春と秋の渡り、冬の越冬。

ダイサギ 全身白くて、背が高い大形のサギ。一年中見ることができ。小形の鳥はコサギ。



渡り鳥とご対面、じっくりその美しさや行動を見る。
野鳥観察館
 庄内川河口に面し、望遠鏡を使って鳥たちの姿や行動を観察できる施設です。施設内には30台の望遠鏡があり、四季折々の水鳥たちを眺めることができます。

団体で利用される際は、事前にお申し込みください。

- 所在地 / 名古屋市港区野跡四丁目11-2 (稲永公園内)
- 入館料 / 無料 ●開館時間 / 9時~16時30分
- 休館日 / 毎週月曜日 (国民の祝日又は振替休日の場合はその翌日) 毎月第3水曜日 (祝日の場合は第4水曜日) 年末年始 (12月29日~1月3日)
- 連絡先 / 名古屋市野鳥観察館 TEL/FAX052-381-0160
- ホームページ / <http://www.inae-bird-watching-place.org> (指定管理者: 東海・稲永ネットワーク)

水質を守るために、干潟とともががんばっています。

宝神水処理センター
 宝神水処理センターは、下水を、1日に150,000m³処理することができる施設です。構内の緑化に努め、周囲の景観との調和をはかっています。

見学 (土・日・祝祭日を除く) をご希望の際は、事前にお申し込みください。

- 所在地 / 名古屋市港区宝神四丁目2501
- 連絡先 / 名古屋市南部宝神水処理事務所 TEL052-381-9274

鳥世界

ふしまえひがた



藤前干潟は地球を旅する渡り鳥たちの大切なガソリンスタンドなんだ。だからみんなで守っていかないと地球の生態系がこわれてしまうんだよ。

2002年11月18日にラムサール条約に登録されたことを記念して、11月18日を「藤前干潟の日」としています。

干潟の主役は僕たちさ。アナジャコやゴカイやカニたちが人間が流す汚れた水をキレイにしているんだよ。

さあ干潟ウォッチングに出かけよう。

藤前干潟で守りたいフィールドマナー
 干潟は、渡り鳥やカニやゴカイのすみかです。楽しいところですが、危ないところもあります。干潟に入ろうとする方は、藤前活動センターにおたずねください。
 干潟は生きものたちのすみか。そっとおじゃまする気持ちで。
 ・野鳥に餌やりをしない。
 ・釣りをする場合は、釣りの後片付けなど、マナーを守る。
 ・生きものたちをむやみにつかまったり、もちかえらない。
 見つけたこと、たのしいことは、分け合おう。
 《干潟は危険なところですよ！気をつけなと、》
 ●泥のふかみに足を取られる。
 ●カキやフジツボで足を切る。
 ●潮が満ちてきて、おぼれる。

※堤防の外は「海」、危ないところですよ。ご注意ください。

干潟のいのちがつなぐもの



渡り鳥を支え、海の幸を育てる
 干潟では、鳥たちはカニやゴカイなどの底生生物を食べ、底生生物はプランクトンを食べます。プランクトンは、川から流れ込む水の中の養分、チッソやリンなどを栄養としています。また、プランクトンを食べた魚介類を、海の幸として私たちが食べています。干潟のいのちのつながりが、水質の浄化 (健康な海) と生物生産 (漁業) を支えているのです。

藤前干潟とふれあう。
ラムサール条約湿地藤前干潟 藤前活動センター
 藤前干潟を正面に臨む施設です。干潟の生きものに直接ふれあう体感学習や、いのちのつながりとはたらきを学ぶことができます。

団体で利用される際は、事前にお申し込みください。

- 所在地 / 名古屋市港区藤前二丁目202
 - 入館料 / 無料 ●開館時間 / 9時~16時30分
 - 休館日 / 毎週月曜日 (国民の祝日又は振替休日の場合はその翌日) 毎月第3水曜日 (祝日の場合は第4水曜日) 年末年始 (12月29日~1月3日)
 - 連絡先 / 環境省 藤前活動センター TEL052-309-7260 FAX052-309-7261
 - ホームページ / <http://chubu.env.go.jp/wildlife/fujimae/index.html> (環境省中部地方環境事務所)
- (藤前活動センターと稲永ビジターセンターを直接結ぶ公共交通機関はありませんが、歩いた場合約1時間半、自転車約15分です。※裏面のルートマップをご参照ください。)

自分の出すごみ、暮らしを見直そう。
南陽工場 (焼却工場)
 可燃ごみを、1日1,500t 処理することができる施設です。名古屋市の可燃ごみの多くが南陽工場で燃やされ、焼却灰等は、大部分は処分場へ運ばれ埋められますが、一部は民間事業者へ熔融処理委託することにより資源化しています。藤前干潟の保全をきっかけにごみ減量に取り組んだ名古屋市は、「ごみも資源も、減らす、生かす」を基本方針として、さらなるごみ減量に取り組んでいます。

見学をご希望の際は、事前にお申し込みください。(予約受付時間 / 9:00-12:00・13:00-17:00 (土日祝を除く))

- 所在地 / 名古屋市港区藤前二丁目101番地
- 連絡先 / 名古屋市南陽工場 TEL052-303-0700 FAX052-303-0701

干潟のいのちとふれあおう。

地球のリズム、潮の干満を感じよう！

●「ガタレンジャー (干潟案内人)」参上！
 ●藤前干潟の魅力と本質を伝えるのは市民活動です。
 藤前干潟では、四季折々に訪れる鳥たちや、生きものの輝き、不思議で精妙な自然のしくみにふれあひながら、渡り鳥に教えられた干潟の大切さと、私たちの暮らしを見直す多彩な市民活動が展開されています。あなたも、このすてきな出会いから、36億年の生命のつながりと、地球の仲間と共に生きる喜びを次の世代に伝える一人になってください。
 潮は春夏は日中に、秋冬は夜中に良く引くという、季節変化もあります。体感学習や干潟見学を計画される時は、ご相談下さい。

- 連絡先 / NPO法人 藤前干潟を守る会 TEL080-5157-2002 (予約受付時間 / 9:30-16:00まで (藤前活動センターの休館日を除く))
- ホームページ / <http://www.fujimae.org>